



地域交流活動かわら版



杏林大学地域総合研究所 研究活動の支援

2023年度指定テーマ

「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」「にぎわい創出」

今年度は指定されたテーマに基づいた研究について、全学部教職員に向けて公募しました。採択された12件の研究のうちいくつかをご紹介します。

杏林大学地域総合研究所所長

長島文夫
(医学部教授)



1 多摩川流域における生物指標を利用した氾濫リスク評価法の開発 責任者:橋本晃生先生(データサイエンス教育研究センター 助教)

翅(ハネ)の長さで河川の氾濫(災害)を予測!

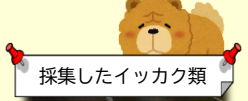
翅型の識別手法に画像AIを構築



橋本晃生先生

河川の氾濫は水辺に生息する生物の姿かたちや行動の変化に大きく影響します。環境の変化に応じて生物集団中の表現型が変化することを表現型可逆性といい、そのような性質をもつ表現型は、**環境変化に対するセンサー**になりえます。氾濫原の砂礫地に生息するイッカクには飛翔するために翅(はね)が発達している個体(長翅型)と翅が縮小して短い個体(短翅型)があり、それぞれの割合は季節的に変動し、氾濫の起きやすい夏季に近づくにつれて長翅個体が多く報告されています。これは氾濫を飛翔によって凌ぐための**戦略の一つである可能性**があると仮説を立てました。

「翅型の地域変異の解明」「生息地選好性の解明」「翅型の画像識別手法の検討」の3点を目的として実施計画を立て、今年度は流域の異なる3地点において、罠を利用した昆虫類の採集を実施しました。1地点では植生調査を行い、生息する植物は約80種記録されました。採取した多数の**イッカク類を写真撮影し、画像解析用に蓄積**することができました。イッカク類は生活史が不明な部分の多い昆虫です。今後も継続的に調査を続けて、データ解析を進めながら**河川の洪水動態と翅型の切り替えの関係性**について検証を続けていくことが災害に備えるまちづくりの一助となると幸いです。



調査地の多摩川流域



2 地域在住高齢者に対する認知症予防の取り組み-農作業療法を用いて- 責任者:津曲優子先生(保健学部 リハビリテーション学科作業療法専攻 助教)

認知症予防には日々の運動を「楽しい」と思いながら継続することが大切です



津曲優子先生

日本の高齢化率は年々高くなっており、認知症有病率は年齢とともに上昇するため、認知症者も増加することが予測されます。認知症は早期発見と予防が重要であり、その予防方法として適度な運動、余暇活動、社会的参加、精神活動、認知訓練などありますが、これらの要素を含み、かつなじみのある作業として農作業があげられます。**認知症予防の取り組みの1つとしてこの農作業療法を実施し、その効果を検証しました。**



今回の農作業療養は60代、70代の健康な女性を対象に、**週1回、2時間のプログラムを8週間(全8回)**の行程で行いました。農作業の内容はユーカリの収穫・加工(リース、スワッグ、バスソルトづくり)など。プログラムに参加することで、健康への意識が高まり前向きに、畑での移動・立位での加工作業はバランス能力が向上するなどの結果が得られました。今回のような取り組みは健康維持を意識して、日常的に行える作業を取り入れるきっかけになりえることがわかりました。

3 COVID-19の影響を受けて拡張した関係人口増加施策に関する研究 -ワーケーション等の新たな観光形態への取り組みを事例として-

責任者:古本泰之先生(外国語学部 観光交流文化学科 教授 兼 地域連携センター副センター長)

東伊豆町と山口県でワーケーション事業を調査

調査結果:地域課題に「戦略的に」ワーケーションを活用



杏林大学地域連携センター副センター長 古本泰之先生

2020年からのコロナ禍を経た近年、新たな交流人口・関係人口増加に向けた動きが活発化している中で、テレワーク等を活用し、普段の職場や自宅とは異なる場所で仕事をしつつ、自分の時間も過ごす(観光庁)滞在スタイル、『ワーケーション』(Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語)がそのひとつとしてあげられています。観光庁は「ワーケーション&プレジャー」の名称の元、その普及を政策的に展開してきており、各自治体においても取り組みが進められています。例えば、本学が包括的連携協定を締結している静岡県東伊豆町では、『第2期東伊豆町まち・ひとと創成 人口ビジョン』において、ワーケーションの推進(p.55, p.64)やリモートワークを関係人口の増加策として取り上げており、『伊豆リゾートワーケーション』(観光庁「既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業」)にも参加しています。

コロナ禍の影響を受けた観光地において、テレワークから広がった「ワーケーション」に注目が集まり、省庁等による様々な支援策が展開されています。ただ、本研究を通じてこれらの支援策が一つの方向性で進められたというよりは、**各地域が自らが抱える地域課題への対処として支援策を戦略的に活用**してきたことが明らかとなりました。したがってそのアウトプットも多様であり、政策に対する評価は長期的な視点で見ることがあります。



杏林大学地域連携センター特任講師 井上晶子先生

そこで、本研究ではCOVID-19の蔓延等の様々な危機を迎えた地域における交流人口・関係人口増加に向けた取り組みについて、主に以下の視点から各地の事例を渉猟、必要に応じて先進事例の現地調査を行いました。

- ① 「ワーケーション」等の新たな観光形態への参画
 - ② 「マイクロツーリズム」「オンライン観光」への対応
- その上で、地域内においてどのような体制で取り組みがなされ、その結果がどのように現れているのかについて、特に①の「ワーケーション」に着目し、先進事例とされる**山口県および本学の包括的連携協定締結先である静岡県東伊豆町**を中心事例として分析しました。

例えば、静岡県東伊豆町におけるワーケーション事業は、**新たなライフスタイルを見出し実現するきっかけづくり**として取り組まれており、参加者同士、地域の人達とのつながり・交流が重視されています。これは、**観光振興策に近い形でワーケーション事業に取り組んでいる山口県山口市とは、同じワーケーションでありながら大きく目的が異なります。**

東伊豆町では、ワーケーション事業を2拠点居住者や移住者に結びつけ、それによって生まれた関係・移住人口の力の内部化により、既存住民内からの新たな動きも生み出す地域の内発力に変えていることが明らかになりました。

COVID-19の拡大を時期を経て人的移動が再び戻ってきている現在において、ワーケーションが一時的なブームに終わるのか、新たな観光振興策として定着するのか、あるいは地方創生の目指す人の流れを創る手段として熟成されていくのか、新たな事例も取り入れつつ、今後の経過を分析していく必要があります。





杏林大学×三菱地所レジデンス 防災まちづくり

* 杏林大学と三菱地所レジデンスは連携して防災力強化に関する取り組みをすすめています *



2023年8月に三菱地所レジデンス(株)が竣工した高品質賃貸マンションに設置される防災ツール「Second Misshon Box」について保健学部 楠田美奈先生・寺島涼子先生が監修を行いました。これは被災時に参考とする様々なポイントをカード形式で示しているもので、今回は避難所生活での困りごとである「健康管理」について健康に過ごすためにはどうしたらいいか、看護学の観点から健康維持にむけてアドバイスや指示をいただき「SMB」の導入にご協力いただきました。

災害時に居住者同士が行動に迷わず助け合うための防災ツール「First Mission Box」

「災害後にどのようなことが求められるのかを想定し、居住者の皆さんの健康維持に看護学がどのように関わることができるのか、改めて考えるきっかけになりました」

大規模災害が起きた時に長引く被災生活を想定した指示カードの入ったツール「Second Misshon Box」

1



寺島涼子先生

楠田美奈先生

2



★ 杏林大学 × 大学コンソーシアム八王子 ★

八王子地域の大学が合同で開催する「BIG WEST学生フェスティバル2023」(5月)書道部の出展がありました！



2023年5月14日(日)～5月18日(木)

『ビッグウエスト学生フェスティバル2023』にて

企画された書道展にお声がけ頂き参加しました。フェスティバルの一環である書道展には「大学コンソーシアム八王子」の連携大学である5大学から全45点の作品が集まり、杏林書道会からは6点を展覧しました。会場には学生たちのエネルギー溢れる作品が並び私自身も作品から元気をもらうことができました。

開催期間中には約130名もの方が書道展に足を運んでくださり、会場の盛り上がりを感じました。

こうした他大学と連携した作品展への参加は杏林書道会としても初めての経験で、参加した部員からは他大学の方と普段の活動の様子や、作品に対する想いなどの話しをすることで、とても刺激になり今後の活動の励みとなった。との意見があり、とてもいい経験になったようです。次年度も嬉しいことにお声がけ頂き数点の作品を出す予定です。こうした活動を通じて他大学と学生同士の交流も深めながら活動の幅を広げ部員にとってより有意義な部活動になればと思っております。

杏林書道会は同好会としてのスタートから14年が経ちました。外部指導員として淡江社書道研究所より塚本先生・寺内先生にお越しいただき毎週のお稽古を行っています。これまで図書館などの学内展示や文化祭への参加に加えて学外での展示活動も行ってきました。コロナ禍の影響もあり現在の部員は少なく細々と活動を続けておりますが、毎週のお稽古は和気あいあいと活動しております。今後とも温かく見守っていただけると幸いです。

杏林書道会
昨年度の
出展を
振り返って...



書道部 顧問
藤田由香利先生

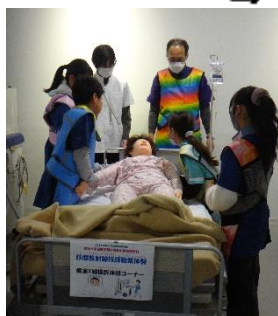
ポータブル撮影の
体験をする参加者

『地域医療に貢献する診療放射線技師の職業体験会』開催！

地域活性化に寄与する社会貢献活動を支援する「地域活動助成費」事業 です

「診療放射線技師ってどんな仕事かな?」「どんな装置が使われてるんだろう?」

実際に見て触って最新の医療技術を体験できる診療放射線技師 職業体験会が保健学部 山本智朗先生の他、診療放射線技術学科の先生方のご指導のもと、3月26日に行われました。近隣の小・中高生と保護者約10名ほどが参加し、当日は保健学研究科の2名の院生もティーチングアシスタントとして撮影手技の指導補助をしました。内容はレントゲン撮影についての説明から始まり、ポータブル撮影、CTスキャン、仮想現実(Virtual Reality :VR)を用いた撮影体験と多岐にわたり最新医療機器に触れながら職業体験を行うことができました。その他、鯨(ぶり)を使って3D画像作成をして生き物がどのように見えるのかの体験もしました。参加者からは驚きの声が聞かれ、放射線を用いることで患者さんの体を傷つけることなく検査や治療を行う診療放射線技師という職業について学ぶ、貴重な機会となりました。



杏林大学

〒181-8612 三鷹市下連雀5-4-1 TEL 0422(47)8000 (代)

E-mail: area@ks.kyorin-u.ac.jp

地域交流課 佐保田・菊池

